

宇都宮市立御幸が原小学校第5学年児童質問紙調査

★傾向

○学習に対して、自分から進んで取り組んでいる児童が多い。

○人と話すことが楽しいと感じている児童が多い。

○家庭では、自分で計画を立てて学習しているという肯定的回答が、市、県平均を上回っている。また、授業の予習・復習を行っている児童も市、県平均を上回り、家庭学習の定着の様子が伺える。

○自然の中で遊んだり、自然観察をしたりしたことがある児童が多い。

●1か月に3冊以上本を読む児童の割合が、市、県平均よりも低い。

●学校のきまりやマナーを守っているという肯定的回答が市、県平均よりも低く、規範意識の低さがうかがえる。

●自分はクラスの人の役に立っていると思うという肯定的回答の割合が非常に低く、児童の自己有用感を高めていくような取り組みを多く取り入れていく必要がある。また、自分には良いところがある、行動や発言に自信をもっているという肯定的回答が低く、自己肯定感を高める活動も併せて取り入れていく必要がある。

●あいさつ、学校の準備、身の回りの片づけに関する肯定的回答が低い。家庭とも協力を得ながら、継続的な指導が必要である。